

全国大会 in 東北・ふくしま実行委員長大和田新さんにきく



のですね」といったんです。これはカルチャーショックでしたね。

われわれどこかで障害を持っていないか、障害者はかわいそうだなとか、おれ目が見えて良かったなという気持ちがあったのだと思います。しかし、停電で騒いだ時に、目明きというものは不自由なものですねとおっしゃった。蛇名先生はすごいと思いました。

ともにラジオ放送しながら

福島県にきて、ラジオ放送も障害のある人といっしょにやっていました。わたしの1つ年下で、大橋雄二君という血友病の方がいます。2万人に一人の血友病で、今から35年前に左足を切断しているんです。その大橋雄二君とわたしは5年間深夜放送をやりました。面白かったですよ。

ルへの入館を拒否されたという投書が来たんです。

これはおかしいな。障害者だってセックスする権利があるんだから：ということ、番組で呼びかけたら来たんですよ。「うちは車いすでもOKですよ」って。おもしろいつながりでした。

雄二君が足を切断したとき、雄二君のことを慕っていた、とっちゃんという難病の方も番組に出てもらいました。

彼は番組をやりながら途中で足を切断する手術をしました。わたしは手術の前の日に会いにいきましたが、病室の前に行ったら笑い声が聞こえるんですよ。入っていったらひざに「へのへのもへじ」って書いてあるんですよ。それは雄二君の影響なんですよ。雄二君が足を切断するときの武士たる覚悟を述べたんですね、とっちゃんに。だからとっちゃんは、歯を一本抜くような感じでストレッチャーに乗せられて足を切ってきましたけどね。そんな元気で逞しい大橋雄二君ととっちゃんです。

番組が残してくれたもの

とっちゃんは番組内では何も喋らなかつたので、詩を書いてきたらという、毎週詩を書くようになりしました。すばらしい詩で若者からものすごい人気が出て。

当時、アイドルタレントの自殺事件で後を追う若者が全国で60人くらい出ました。わたしの番組でも自殺を予告する手紙がいっぱい来たんです。われわれも絶対死んではいけないと呼びかけをしました。

そんなときに、とっちゃんがあるすごくいい詩を書いてくれたのです。それが若者たちの心を打ったんですね。「人は自らの意志で生まれてきたのではなく、この世に誕生したいと願ったわけでもない。神の命ずるままにこの世に誕生してきた。だから、死ぬ時も自分の意思で死んではいけない」。というような詩でした。これがものすごく反響があったんですよ。われわれが番組をやっている5年の間に、福島県中のいろんな障害のある人たちが、われわれの番組